

2. 第1期行動計画における取組のレビュー

健全化計画では、恵み豊かな印旛沼・流域の再生に向けて、5つの目標を掲げています。この目標の達成状況を評価するため、9つの評価指標と目標値を設定し、これらを指標にして、5つの目標の達成状況を評価しています。

9つの評価指標の目標値達成状況と、それらを踏まえた5つの目標の達成状況は、以下のとおりです。

5つの目標の達成状況(第1期の期間：2009(H21)年～2015(H27)年度)

5つの目標	達成状況
良質な飲み水の源 印旛沼・流域	トリハロメタン生成能、2MIBは減少傾向にあります。目標は達成されていません。 水道に適した水質を実現するためには、より一層の努力が必要です。
遊び、泳げる 印旛沼・流域	アオコの発生は減少傾向にあるものの、水質や水の透明度は計画策定当初から横ばいです。 「遊び、泳げる」印旛沼にするためには、より一層の努力が必要です。
ふるさとの 生き物はぐくむ 印旛沼・流域	植生帯整備箇所では、かつて生育していた沈水植物などの希少種が再生しています。一方で、ナガエツルノゲイトウ等の特定外来生物が侵入しており、今後も生き物の生息・生育環境の保全が必要です。
水害に強い 印旛沼・流域	河川改修等が進んだことにより、治水安全度が向上し、洪水の頻度は少なくなりました。 一方で、気候変動等の影響により、ゲリラ豪雨などの大雨が増加しており、水害に強い地域づくりのため、ハード・ソフトによる総合的な対策が求められています。
人が集い、 人と共生する 印旛沼・流域	「佐倉ふるさと広場」の利用者数は横ばいですが、環境・体験フェアの参加人数は近年増加傾向にあり、かわまちづくりの取組も始まるなど、「人が集い、人と共生」する印旛沼の実現に向けた機運が高まっています。

9つの評価指標の達成状況

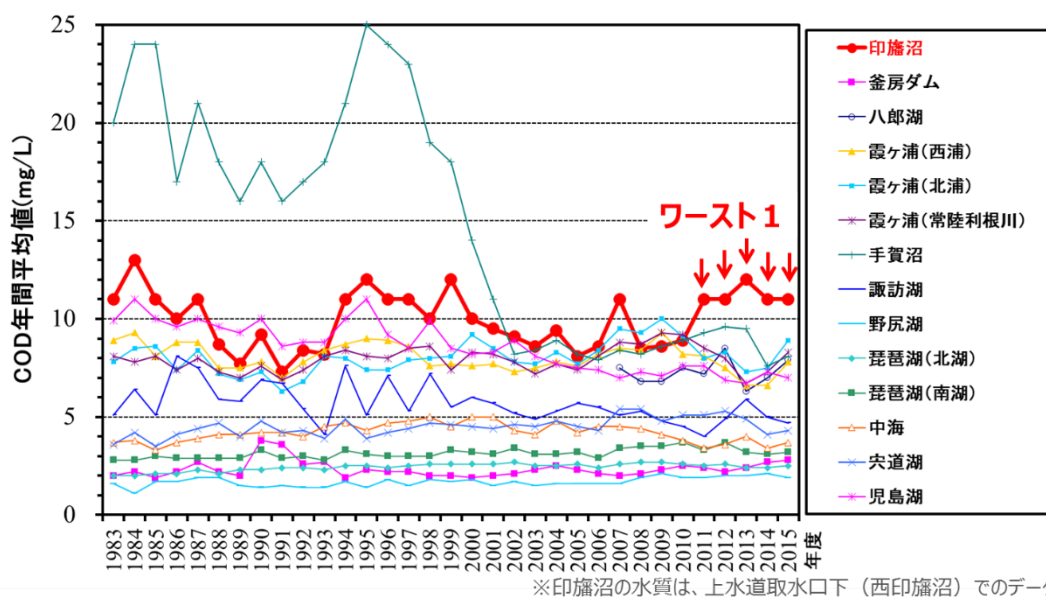
評価指標	第1期目標値	達成状況
①水質	★クロロフィルa : 年平均 75μg/L 以下 ★COD : 年平均 7.5mg/L 以下	評価地点である西印旛沼「上水道取水口下」で月2回実施されている水質調査の年平均値は、クロロフィルa : 150μg/L、COD : 11mg/L と目標値を超過しています。
②アオコ	★アオコの発生が目立たなくなる	印旛沼内の複数箇所で確認しているアオコの発生状況は、2007(平成 19)年をピークに減少傾向です。
③清澄性	★透明度が改善する : 0.5 m 程度	佐倉ふるさと広場でほぼ毎日観測されている見透視度調査の年平均値は、0.19mと目標水質を超過しています。
④におい	★臭気が少なくなる	西印旛沼の水を取水している印旛取水場では、藻臭・下水臭が毎年観測されている状況です。
⑤水道に適した水質	★2-MIB、トリハロメタン生成能が改善する	2-MIB は 0~0.50μg/L で、トリハロメタン生成能は 0.047~0.222mg/L であり、両項目ともに2030(平成 42)年度の目標値を達成する年もありますが、前年度を上回る年も出ています。
⑥利用者数	★増加する	佐倉ふるさと広場の利用者数は、年間 25 万人前後を推移しており、近年ほぼ横ばいの傾向にあります。環境・体験フェアの参加者数は 2010(平成 22)年度から増加傾向で「2014(平成 26)」昨年度は約 2000 人でした。
⑦湧水	★印旛沼底や水源の谷津で豊かな清水が湧く	注目地点の加賀清水での湧水は枯渇しない状況が続いています。
⑧生き物	★かつて生育していた沈水植物が再生する ★特定外来生物を侵入・拡大させない	植生帯整備箇所では、印旛沼固有の沈水植物の再生に成功しましたが、群落の拡大には至っていません。 ナガエツルノゲイトウは、流域全体に分布している状況ですが、桑納川などでは効果的な駆除の取組を始めました。カミツキガメは、継続的に駆除が行われていますが根絶には至っていません。
⑨水害	★治水安全度が向上する	河川改修が進められ、治水安全度は向上していますが、2013(平成 25)年の台風 26 号では、鹿島川や高崎川の下流部などで浸水被害、北印旛沼の一部で溢水が発生しました。

※2008(平成 20)年(計画策定時)と 2030(平成 42)年(健全化計画)の目標値については、参考資料 112 ページ以降に示す。

■コラム：印旛沼の水質状況

我が国の主な湖沼での水質データ（COD）を下図に示します。印旛沼の水質は、近年COD10mg/L前後で推移しており、残念ながら2011(H23)年度から5年連続で全国湖沼ワースト1位を記録しています。

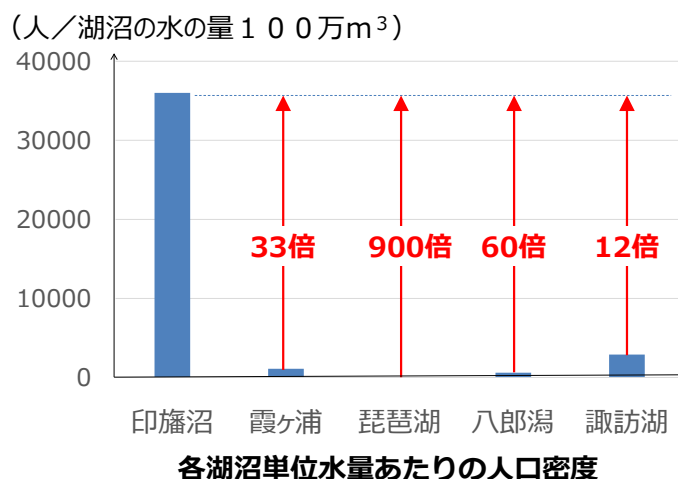
第1期行動計画では、水質改善に向けた様々な対策を実行していますが、まだまだ印旛沼の水質改善という明確な成果は現れておらず、引き続き水質改善に向けた努力が必要となっています。



国内の主な湖沼のCODの変遷

また、各湖沼の貯水量に対する流域人口という視点で比較すると、印旛沼は他の湖沼に比べて人口密度が高いことがわかります。これは、私たちの生活や営みが、印旛沼の水質に影響しやすいことを示していますが、同時に、一人ひとりの取組は小さくとも、それが積み上がることによって、大きな成果を生むポテンシャルを持っているとも言えます。

印旛沼流域に暮らす作法として、印旛沼の水質改善に資する取組が、暮らしの中に根付いていくことを目指します。



■コラム：印旛沼の概要

印旛沼は、都心から 50km 圏内、成田国際空港から 20km 圏内の位置にあり、千葉県面積の約 1/10 を占め、13 市町にまたがる流域です。

貯水量は関東地方で第 4 位であり、年間約 2.5 億 t の水が上水・工業用水・農業用水に使われるなど、県内の生活や産業を支える重要な水がめです。

沼は、北印旛沼と西印旛沼に分かれており、西印旛沼は比較的利用が盛んな一方、北印旛沼は鳥類のサンクチュアリになっているなど、貴重な環境が残されています。



湖面積

11.55km²

千代田区の面積に
匹敵

貯水量

1970万m³

関東地方で
第 4 位

流域人口

78万人

千葉県人口の
約 1 割強

水利用

2.5億t/年

上水、工業用水、
農業用水



西印旛沼 (2010年9月撮影)
比較的、利活用が盛ん



北印旛沼 (2010年9月撮影)
鳥のサンクチュアリ

3. 第2期行動計画の基本方針

1) 取組理念

第2期行動計画の推進にあたって、以下を取組理念とします。

人をつなぎ、地域をつなぎ、未来につなぎ

水循環健全化の^わ環を広げ、印旛沼流域創生のムーブメントにつなげる

手探りで着手した緊急行動計画における「みためし行動」から得た基礎的知見を踏まえ、第1期では、流域における各種対策の具体化に取り組んできました。その結果、「印旛沼ルール」の策定や「調整池改良の手引き」作成等にみられるように、健全化の取組実績やそのノウハウが蓄積されてきました。

多様かつ難しい課題をかかえる印旛沼流域の水循環健全化の実現には、行政をはじめとして、市民や市民団体、農業・漁業・観光等沼利用者、企業、流域市町、研究機関など、多様な主体による自主的な行動が一層盛り上がり、流域全体に水循環健全化の環が広がり、印旛沼流域創生のムーブメントにつながることが必要不可欠です。

緊急行動計画、第1期行動計画を経て、「印旛沼流域かわまちづくり計画」の登録や、印旛沼流域環境・体験フェアにおける市民企画部会の立ち上げ、地域協働によるナガエツルノゲイトウ駆除活動など、多様な主体の参加のもと、地域づくりとの連携や市民参加の活性化に向けた第一歩が始まったものの、ムーブメントにはまだ遠い状況です。

そこで、第2期行動計画においては、様々な関係者が情報共有、お互いを理解、連携することで取組を推進し、印旛沼及びその流域を大切な資産として地域づくりに活用するとともに、流域連携により相互補完・相乗効果の創出を図り、持続可能な取組によりその資産を次世代に引き継いでいくことを取組理念として掲げ、水循環健全化に取り組んでいきます。



印旛沼流域環境・体験フェアの様子

●人をつなぎ／多様な主体の情報共有、理解、連携を活発にします

- ◇ 市民や市民団体、農業・漁業・観光等沼利用者、企業、流域市町、研究機関など、印旛沼・流域に関わる多様な主体が、情報共有し、お互いに理解を深めて、積極的に連携・協働・交流を図り、様々な取組を推進していきます。
- ◇ 印旛沼・流域には、水循環健全化につながる様々な市民活動がみられます。こうした市民の取組にもスポットを当てるとともに、新たな連携を図ることで、取組の推進を図ります。
- ◇ 様々な機会を捉えて、継続的に多様な主体とのコミュニケーションを図り、水循環健全化への共感を得るとともに、人と人とがつながるきっかけとしていきます。

●地域をつなぎ／流域で相互補完、相乗効果を創出し、地域づくりに活用します

- ◇ 印旛沼流域内の市町間や、印旛沼の水源地域と下流地域、農村と都市部、流域内と流域外など、印旛沼に関わる地域の有機的な連携を促し、相互補完や相乗効果の創出を図ります。
- ◇ 印旛沼流域における地域づくりとの連携、印旛沼及び流域を活用した地域創生、地域活性化を図ります。

●未来につなぎ／持続可能な取組により、地域資源である印旛沼流域を次世代に継承します

- ◇ 印旛沼との伝統的な付き合い方や先人達の知恵、長い年月をかけて育まれてきた歴史や文化、今に引き継がれている印旛沼のある暮らしの豊かさを、地域のアイデンティティとして後世に引き継ぎます。
- ◇ 印旛沼流域と人との関わりを強めることで、印旛沼流域が地域の共有の財産として、多様な人々により保全・活用され、次世代に受け継がれていくことを目指します。
- ◇ 印旛沼をめぐる人や地域がつながることで、様々な知恵やアイデアの交流が生まれ、多くの課題解決につながる取組が、将来にわたり持続的に展開されることを目指します。

○印旛沼流域創生とは

「印旛沼流域創生」とは、長い年月をかけて育まれてきた印旛沼流域の歴史や文化、印旛沼流域を特徴づける沼や水辺、台地、里山などの自然環境を、流域の多様な主体が一丸となって保全・活用し、暮らしの中で楽しむことで、人や地域の交流が活発になり、印旛沼を核としたコミュニティ再生や、印旛沼流域を中心とした地域づくりが活発になる姿をイメージしています。

2) 計画の進行管理

■第2期行動計画の進行管理

第2期行動計画は、PLAN（計画）、DO（実行）、CHECK（確認）、ACTION（見直し）およびPUBLICATION（公表）の5つの視点を基本として、進行管理を行います。

計画策定 (PLAN)	<ul style="list-style-type: none">第2期行動計画を策定します。
取組の実行 (DO)	<ul style="list-style-type: none">計画に基づき、取組を実行します。
確認 (CHECK)	<ul style="list-style-type: none">健全化会議や県・市町、印旛沼環境基金等のイベントにより、計画に掲げられた取組の進捗状況の情報共有を図ります。行動計画の進行状況（目標達成状況含む）は、毎年度、健全化会議委員会（以下、「委員会」という。）で共有します。9つの推進テーマに基づく取組^{※1}は、ワーキング等により毎年総括を行い、委員会に報告し、助言と評価を受けます。34の対策群^{※2}における行政による事業については、計画期間の最終年に総括（期末レビュー）を行い、委員会に報告し、評価と助言を受けます。
見直し (ACTION)	<ul style="list-style-type: none">取組の評価や新たに生じた課題に応じて、取組の改善を図ります。委員会からの評価と助言を踏まえ、次期行動計画を策定します。
公表 (PUBLICATION)	<ul style="list-style-type: none">目標の達成状況や、委員会における検討状況については、WEB サイト（いんばぬま情報広場）等により公表します。毎年の取組成果をわかりやすく公表します。

※1：9つの推進テーマに基づく取組の詳細は、17ページ参照

※2：34の対策群の取組の詳細は、65ページ参照

■次期行動計画の策定に向けて

第2期行動計画に位置づけられた取組について、進行状況の評価や社会情勢の変化に応じて、柔軟に見直しを行います。

また、長期的な課題解決に向けて必要な対策についても、実現に向けたロードマップを整理し、次期行動計画に引き継ぐことで、着実な目標達成を図ります。